

# 2024 年度 骨転移診療コース

本コースを学びたいようでしたら、以下の応募フォームより申し込みができます。

あなたのプロフィール、志望動機等をフォームに入力してください。

記入後に送信ボタンを押されませんと、応募が完了しませんのでご注意ください。

応募が完了しますと、登録いただいたメールアドレスに回答内容のコピーが送信されます。

この応募完了をもちまして選考への応募とし、採用選考を実施させていただきます。

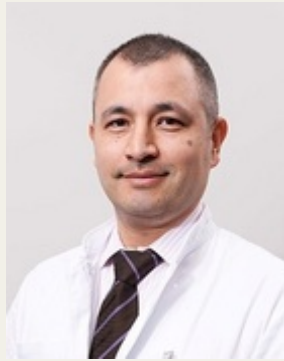
## 応募フォーム

[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSe6kbPyrSZJQpUdHGV\\_YX0oJi7yRHUVOfc4SSVY9Te2wwzwA/viewform?usp=sf\\_link](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSe6kbPyrSZJQpUdHGV_YX0oJi7yRHUVOfc4SSVY9Te2wwzwA/viewform?usp=sf_link)

## コース詳細

コース名	骨転移診療コース(インテンシブコース)
研究科等名	医学研究科
専攻名	整形外科学
養成(受入)人数	数名
期間(合計時間)	20 時間以上
受入開始時期	2024 年 6 月～随時
概要	<p>近年の画像診断技術の向上と、抗がん治療成績の改善から、骨転移の患者さんが増加しています。骨転移を生じる疾患は内臓発生の固形腫瘍だけでなく、血液系腫瘍、皮膚がん、肉腫など幅広いです。また、骨転移は頭蓋骨から指骨・趾骨まで、広くどこにでも発生するため、症例ごとに発生部位、大きさ、悪性度など、病変に応じた治療戦略が必要となり、その判断プロセスが極めて重要になります。骨転移を有する、ということは進行期のがんであることが多いので、治療そのものに加え、患者の社会的背景に沿った支援が必要になります。骨転移による痛みや骨折、麻痺などで、進行期の患者さんの QOL が著しく低下しないように、原発診療科、緩和医療科、放射線照射科、リハビリテーション科、整形外科などを含めたチームで協議し、患者さんの骨転移をマネジメントすることが重要視されてきております。</p> <p>本コースでは、臨床実習の他、カンファレンス、セミナーに参加して、骨転移診療を通じて、運動器診療や多診療科・多職種と連携したチーム医療の重要性を学んで頂きたいと考えております。</p>
コースの流れ	<ol style="list-style-type: none"><li>(1)慶應義塾大学病院および協力施設（がん専門医療機関）での研修</li><li>(2)整形外科腫瘍班カンファレンス参加</li><li>(3)骨・軟部腫瘍画像カンファレンス参加</li><li>(4)骨・軟部腫瘍病理カンファレンス参加</li><li>(5)骨転移カンファレンス参加</li></ol>

- (6)Pediatric oncology board
- (7)信濃町骨・軟部腫瘍研究会参加
- (8)その他、希少がん、小児がん、AYA 世代がんの研修セミナーや各種講演会への参加



慶應義塾大学医学部整形外科

講師 中山 タラント ロバート

経歴

担当教官

- 2001年 慶應義塾大学医学部卒業
- 2001年 慶應義塾大学病院 整形外科 研修医
- 2004年 国立がん研究センター中央病院 整形外科 研修
- 2005年 国立がん研究センター研究所 疾患ゲノムセンター 研究員
- 2007年 慶應義塾大学病院 整形外科 助教
- 2008年 慶應義塾大学大学院 博士課程修了
- 2009年 ウィーン医科大学 整形外科 (短期留学)
- 2009年 栃木県立がんセンター 骨軟部腫瘍科 医員
- 2011年 慶應義塾大学病院 整形外科 助教
- 2013年 米国ダナ・ファーマー癌研究所 腫瘍内科 研究員 (留学)
- 2016年 慶應義塾大学病院 整形外科 助教
- 2017年 慶應義塾大学病院 整形外科 講師

## 募集要項

募集人数	数名
応募資格	骨転移診療を通じて、運動器診療や多診療科・多職種と連携したチーム医療の重要性を理解し、熱意をもって本コースに取り組むことのできる医師・看護師・薬剤師・その他の医療スタッフ。
応募期間	2024年5月31日：応募〆切
選考方法	一次審査：本webでのエントリーシート審査 (※原著論文がある場合には別冊もしくはコピーをお送りください。) 二次審査：一次審査合格者に対し面接を実施します。(慶應義塾大学医学部にて)
選考スケジュール	2024年5月31日：応募〆切 最終結果はメールにてご連絡します。